

1944年 昭和東南海地震と 新聞報道

何を伝え、何を伝えなかったのか？

戦時中は報道統制が行われ、新聞やラジオなどのメディアは正しい情報を市民に伝えなかったといわれている。東南海地震についても同様に、被害の状況が正確に伝えられず、被災者は十分な支援もないままに苦しい日々を過ごさざるを得なかったと、以前から言われてきた。

また近年にも、東南海地震に対する新聞記事を取り上げた著書がいくつか出版されているが、これらにおいても表題やキャッチフレーズに「隠された…」とあるように、伝えられなかったことが強調されている。このため、新聞記事の分析も断片的で、全体として当時の新聞が誰に何を伝えようとしたか、という視点が欠けているように思える。

そこで再度、当時の新聞記事を調べてみた。その結果、被災地を含む地域に発行エリアをもつ中部日本新聞（現在の中日新聞）には、地震後一か月で、300本近くの震災関連記事が掲載されていることがわかってきた。それら一つ一つの記事を徹底的に分析し、当時の新聞が東南海地震に対して、誰に何を伝えようとしたか、さらにはそこから、当時の救済や復旧・復興の実態と、現代への影響が明らかになりつつある。本展ではそれらの結果をご紹介します。

戦後、80年が過ぎ、戦時中のことがらを研究する学問は、これからが本番であると考えている。

名古屋大学減災連携研究センター 招へい教員 武村雅之



新聞出典：中部日本新聞 1944年 12月 8、9(静岡版)、10日 図版出典：『昭和19年東南海地震』(名古屋大学減災連携研究センター、2019)『東南海大地震調査概報』(中央気象台、1945)



減災館

Disaster Mitigation Research Building

名古屋大学減災連携研究センター

スペシャルギャラリートーク開催(予定)

①9/11(金) ②10/16(金) ③11/13(金) ④12/4(金)

※いずれも13:30～(60分程度)、日程変更の場合はHPに掲載します

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 Tel: 052-789-3468 Fax 052-789-5023
開館時間：13:00-16:00 休館日：日祝・月・火曜日、第2、最終土曜日
※天候、行事等の諸事情により上記以外でも急遽休館になる場合がございます。
※最新の情報はHPにてご確認ください。右側QRコードからもご覧いただけます。
https://www.gensai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=22

